

6. 城西地区の旧町名の由来

私たちの住む城西地区は丸亀城に抱かれ、旧町名はいかにも城下町という意味のある町名がつけられていました。また、『山北八幡宮は、なぜ城（山）の南にあるのでしょうか?』など…歴史を紐解きつつ神社・地藏・金比羅街道・武家屋敷・旧町名の由来を紹介します。

※なお地名等の由来は図書館、資料館、会下天満宮の古書の中から引用させていただきました。

地図番号	名	名前の由来・由緒
㉑	まるがめ丸亀	かんでんこうひつ 「閑田耕筆」(江戸後期の随筆4巻)によると、守典和尚が下津井より舟で丸亀に來ていると五尺ばかりなる物体を見つけ、船頭に聞いたところ『あれは大きい亀が首を出したところで、穏やかな海の時は、全身が見える時もある。昔より大小二亀住みて大きい方は二十疊敷程ある。小さい方はそれ程でもない。』このものの住めるがゆえに、ここを丸亀と名付けたり、とあります。
㉒	まるがめじょう丸亀城	慶長三年、先封生駒家の時、これを築く。寛永十八年、山崎甲斐守家治朝臣移りてまた修築せしなり。万治元年京極侯当城に移りたまひしより、高松へ七里、金比羅へ三里、土佐高知へ三十五里とあります。
㉓	えげてんまんぐう会下天満宮	すがわらのみちぎねみこと おおものぬしのみこと だいこくさま あめのほひのみこと 御祭神は菅原道真命・大物主命(大黒様)・天穂日命。 あまてらすおおみかみ ことしろぬしのみこと そして、天照皇大神・事代主命(えびす様)を合祀されています。 現在、中府景川町にあり讃岐の国司に任ぜられた道真公は、仁和二年42歳の厄除の神事と菅家の繁栄を当地の古社でご祈願せられました。そのおりこの地の景勝を殊のほか好まれ、益甲(えげ)郷に那珂、多度、三野、豊田の四郡を管轄する国府の支庁を置かれました。公任満ちてご当地を去られるおり、別れを惜しまれ自らの真像を刻まれ、亡くなられた後、その像をお祀りしたのが創祀ということです。
㉔	やまきた山北 はちまんぐう八幡宮	ほむだわけのみこと おきながらたらしめひめのみこと たまよりひめのみこと 御祭神は品蛇和氣尊・息長帯姫命・玉依姫命で あまてらすおおみかみ おおものぬしのかみ あり天照皇大神・大物主神等が合祀されています。旧丸亀市の産土神でかつては丸亀城の北にあったが慶長七年国守生駒一正が西讃鎮護のため亀山に築城の際、麓にあったのを移転すべく遷座地を物色中作原郷王子の森の松の上にさん然と輝く光が現れ終始照らし続け、一正は八幡宮のお告げと現在地(山北町)に遷宮した。光り輝いた松は「神光松」と名付けられました。
㉕	きたむきじぞう北向地藏	玄要寺の塔頭のひとつ「一枝院」が今の北向地藏のある一帯と思われます。
㉖	なかぶぐち中府口	現在の中府五丁目の南端、旧寒川木工所の五差路の所で数十年前まで警察の派出所が、江戸時代には番所があった場所で中府開閉を明治始め頃までしていました。 ここには「金比羅大権現百四十丁…」とある石燈籠があります。金比羅参拝のお遍路さんが中府の番所を過ぎ、城下町丸亀を出た所にある道標でここからは沿道の両側に広がる田畑の風景を楽しみながら百四十丁(約14km)の道を行くのです。
㉗	なかぶ おおとりい中府大鳥居	中府口から南へ300mの所に花崗岩の大鳥居がある。金比羅街道の一の鳥居ともいべき物です。明神造りで高さは22尺(約6.7m)あり、人家も少なく巨大に思えた事でしょう。

地図番号	町名	現在の町名と位置	町名の由来・その他
①	いちばんちょう一番丁～ じゅうばんちょう十番丁	大手町 城東町二丁目堀端 六～十番丁	江戸時代藩主が中級武士以上の家臣を住ませた外堀の内側で北から一番丁～四番丁(現 大手町)城の東側を五番丁(現 城東町二丁目堀端)城の西側を六番丁(現 城西小学校南側)城の南側を七番丁～十番丁とした。 (出典 新編丸亀市史2 近世編など)
②	かみじかた上地方	城西町・中府町	現在の南条町以南の一帯でやや小高い土地になっていた。
③	のうにんまち農人町	中府町五丁目5番 城西町二丁目6番の町筋 (旧金比羅街道沿い)	玄要寺(京極家から百五十俵を受けていた菩提寺)の正面入り口にあり堀にかけられた橋を渡り本堂へ参拝していた。農作業に必要な道具類、その他の店が並んでいた。
④	えさし まち餌指(差)町	中府町五丁目3・4番 7・8・9番の町筋 (旧金比羅街道沿い)	鷹の餌を調える役人が住んでいたから、住んでいた人の職業から呼ばれるようになった町名である。
⑤	ふくろまち袋町	中府町五丁目1・4番 城西町二丁目5・6番 付近の裏路	農人町中程に南に入る路地。妙行寺南と東の行き止まり袋状路地。
⑥	なかぶちょう中府町	北は 中府町三丁目9番から 南は 中府町二丁目1・2番 までの旧金比羅街道沿い	約1100年程前、仁和年間に讃岐の国司となり滝宮に來ていた菅原道真公は那珂郡の府庁をこの地に設け、度々訪れ近くの会下の里にも立ち寄ったという。那珂郡の府があったので『中府の地名』が生まれたと伝えている。
⑦	さんげんや三軒家(屋)	中府町二丁目4・5番と 中府町三丁目5・6番付近の 町筋(旧金比羅街道沿い)	明治四年に建立された大鳥居あたりから南に民家が三軒くらいあったと言われる。
⑧	うずいけ渦池	中府町三丁目	西中学校付近にあった溜め池の名前が地名。
⑨	たかじょう まち鷹匠町	城西町二丁目4番	約330年前の山崎時代の地図にも書かれている古い町で20戸ぐらいの家数であった。鷹を飼い馴らし藩主の鷹狩りに従う侍が住んでいた。
⑩	さかえまち栄町	中府町三丁目1・3・5号 9・10号	明治期までは農道として利用されていた。
⑪	かげがわちょう景川町	中府町五丁目6～8号 10～15号	中府会下天満宮の前一帯の地域にあたり平安時代讃岐国司であった菅原道真が当地に來て“好き景色なり”と嘆賞されたことが地名。 (出典 広報丸亀平成23年12月号丸亀今昔など)